

障害ってなあに？

「歩けないこと」「耳が聞こえないこと」「目が見えないこと」「自分の気持ちを伝えることが苦手」「気持ちをおさえることができない」などがありますが、日常生活の中で障害のある人が「困っていること」が実は「障害」なんです。

障害のある人のことを知り、理解するための本を集めてみました。

1. 障害ってなあに？

えほん障害者権利条約 藤井 克徳／作 里 圭／絵 汐文社 （絵本）	障害者権利条約の誕生から大切さ、めざす社会までをやさしく紹介します。
心のバリアフリーを学ぶ Ⅰ 高橋 儀平／監修 小学館クリエイティブ （小学3～4）	さまざま障害のある人の声とともに、身近な生活の場面でのバリアフリーの工夫を紹介します。
「ちがい」ってなんだ？ 井筒 節ほか／監修 学研プラス （小学5～6）	「障害」をテーマにして、「ちがい」について考える本です。様々なちがいや障害、サポートの基本などについて、マンガやイラストを交えてやさしく解説しています。
どんなかんじかなあ 中山 千夏／ぶん 和田 誠／え 自由国民社 （絵本）	友だちのまりちゃんは目が見えない。それで考えたんだ。見えないってどんな感じかなあって。ひろくん、そして彼のともだちの話が、いろいろな考えをはこんでくれる絵本です。
ねえ、きいてみて！ ソニア・ソトマイヨール／文 ラファエル・ロペス／絵 汐文社 （絵本）	糖尿病、ぜんそく、車いす、吃音…。それぞれのやりかたで庭づくりに参加している様子を通して、誰もがみんなちがうこと、ちがいを認めてお互いを知ろうとすることの大切さを伝えます。
発達と障害を考える本 Ⅰ 内山 登紀夫ほか／監修 ミネルヴァ書房 （小学生）	子どもと大人が一緒に考え学べる工夫がいっぱいの本です。
みんなのバリアフリー Ⅰ 徳田 克己／監修 あかね書房 （小学3～4）	みんなが暮らしやすい社会を目指して、「気づき、知り、行動する」という段階を追ってバリアフリーを学びます。
みんなとちがってもいいじゃない ジェン・グリーン／文 評論社 （小学1～2）	あたし、サラ。ふつうの子とちがうって？そう、車いすにのってるの。低学年の子ども達が、様々な障害について考えるための本です。

2. 生活や運動が不自由ということ

おねえちゃんとわたし ミッシェル・エマート 小学館 （絵本）	重度の脳性まひの障害をもつおねえちゃんを妹の目から語る絵本です。医療ケアや言葉の話せない姉の生活をごく当たり前に伝えています。
きょうのぶにあったよ いとう えみこ、伊藤 泰寛／著 ポプラ社 （絵本）	なっちゃん。今日は特別楽しい1日でした。どんなに楽しかったか、なっちゃんにも知ってほしくて、手紙を書いています。脳性麻痺のため体をうまく動かすことができないのぶは、話すときは指で返事をします。
くつが鳴る 手嶋 洋美／作 あべ まれこ／絵 BL出版 （絵本）	体の不自由な陽子は、1か月前にようやく歩けるようになったばかりです。今日も公園へ歩く練習にきました。ひたむきな陽子と、彼女を見守る友人たちとのふれあいを描いています。
車いすバスケットで夢を駆けろ 京谷 和幸／著 金の星社 （小学5～6）	発足したてのJリーグで活躍した京谷和幸。しかし交通事故で脊髄を損傷した彼は、リハビリで出会った車いすバスケットでパラリンピックを目指す。Jリーガーから一転車いす生活へ、そして再び夢をつかむまでの半生。
さっちゃんの まほうのて 田畑 精一ほか／共同制作 偕成社 （絵本）	先天性四肢欠損という障害を負って生まれたさっちゃんは、傷つきながらも現実をうけいれ、力強く歩き始めます。
手足のないチアリーダー 佐野 有美／著 山田 デイジー／絵 KADOKAWA （小学3～4）	生まれつき手足がないあみちゃんだけど、小学校ではいつもクラスの人気者。ところがちょっとしたことから孤立してしまう。なやんだすえ、あみちゃんのみつけた答えとは？ 実話ストーリー。
どんどんいけいけゆうき号（ゴー）！ 杏 有記／文 佼成出版社 （小学3～4）	熊本県の米野岳小学校の裏手にある岩原川は、最高の遊び場。しかし、車イスの侑希さんは川におりられない。同級生と先生、校長先生は、いっしょに川遊びができるようにと立ち上がりました。
ペカンの木のぼったよ 青木 道代／ぶん 浜田 桂子／え 福音館書店 （絵本）	体を動かすのも話すのも不自由なりんちゃん。でも幼稚園ではみんな友だち。親友のみっちゃんが「ねこざぶとん」の話をしてくれたのがきっかけで思わぬドラマが展開します。
ぼく、がんばったんだよ 沢田 俊子／著 汐文社 （小学3～4）	和馬くんは、筋肉の力がだんだんおとろえていく筋ジストロフィーという病気にかかっていますが、病気にまけず、電動車イスサッカーや水泳などにチャレンジしています。和馬くんが、家族や友だちにささえられて、阪急電車沿線を一駅ずつ、歩行と車イスで歩きとおした、5年間の記録です。
わたしいややねん 吉村 敬子／文 松下 香住／絵 偕成社 （絵本）	手足などに障害をもち、外出する時は車いすを使う著者が、人間としての叫びを素直につづった絵本です。 友人が力強い絵をそえました。
わたしの足は車いす フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク／作 フェレーナ・バルハウス／絵 あかね書房 （小学3～4）	アンナは両足がマヒしていて、家の中でも外でも車いすにのっている女の子です。はじめてひとりでスーパーマーケットまでおつかいに行くことになったアンナは…。
笑われたくない！ 手嶋 ひろ美／作 文研出版 （小学3～4）	手足が不自由な結花は、お楽しみ会の出し物で小雪と二人羽織をすることに。練習して上手になるつもりだったのに、同じ班の翔太と信吾から、観客を笑わせるためにわざとへんな食べ方をしろと言われてしまい…。

3. 目が見えにくい・見えないということ

おとうさんの手 まはら 三桃／作 講談社 （小学1～2）	においをかぐこと、耳をすますこと、手でさわること。目の見えないお父さんが見せてくれる、鮮やかな景色と家族の確かなつながりを感じます。
サリバン先生とヘレン デボラ・ホプキンソン／文 ラウル・コローン／絵 光村教育図書 （絵本）	2歳になる前に聴力と視力を失い、ものに名前があることすら知らなかったヘレン・ケラー。彼女がアニー・サリバン先生と出会ってから、言葉を覚えて、手紙が書けるようになるまでの奇跡の4か月を描いた絵本です。
凸凹あいうえおの手紙 別司 芳子／著 くもん出版 （小学5～6）	大地は、交流会の案内の手紙を佐山さんに届けました。けれど、佐山さんは目が不自由で手紙が読めず、返事がきません。話しかけて返事を聞く勇気のない大地は、点字で手紙を書けばいいと気づきました。
トウクパをたべよう プラバラム、シーラ・プリーツ／ぶん シルパ・ラナデ／え イマジネーション・プラス （絵本）	今日の晩ごはんは、ごちそうスープのトウクパ！ ツェリンは「食べに、おいでよ」と友だちを誘いますが、料理の途中、停電で真っ暗になり…。目の見えない男の子の世界を音とにおいと、味と手ざわりで豊かにいろどった絵本です。
どうしてダブってみえちゃうの？ ジョージ・エラ・リヨン／文 リン・アヴィル／絵 岩崎書店 （絵本）	絵本を読むときに目を細めたり、人にぶつかったりしていたジニー。モノがダブって見える複視の女の子を描いています。
バスが来ましたよ 由美村 嬉々／文 松本 春野／絵 アリス館 （絵本）	目の病気から全盲になった男性が、地元小学生に助けられながら続けた、バス通勤。「バスが来ましたよ」その声は、次々と受け継がれていきます。実話をもとにした絵本です。
みえないって どんなこと？ 星川 ひろ子／写真・文 岩崎書店 （絵本）	すーさんも全盲のめぐみさんも児童館の先生です。アイマスクをして友達をさがす、さわってみる、なめてみる…五感を働かせて「心で見る」とはどういうことなのでしょう。
みえるとかみえないとか ヨシタケ シンスケ／さく 伊藤 亜紗／そうだん アリス館 （絵本）	宇宙飛行士のぼくが降り立ったのは、目が3つあるひとの星。普通にしているだけなのに、「後ろが見えないなんてかわいそう」と言われて…。目の見えない人が「見る」世界は、ぼくとは大きくちがっていた。
見えなくてもだいじょうぶ？ フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク／作 あかね書房 （小学3～4）	お買い物にきた町の通りのまんなかでカーラは迷子になってしまいました。カーラに声をかけてくれたのはなんと、目が不自由なおにいさんでした。おにいさんはカーラを助けてくれるというのですが、どうするのでしょうか…？
ゆうこさんのルーペ 多屋 光孫／文・絵 合同出版 （絵本）	ゆうこさんは、生まれたときから目がよく見えません。大好きな本を読むときは、いつも「ルーペ」をつかいます。ゆうこさんの「ルーペ」が不思議で仕方ないはやたくんは…。
わたしのすてきなたびする目 ジェニー・スー・コステキ＝ショー／さく 偕成社 （絵本）	わたしの左目は斜視。「旅する目」なんだ。だからこそわたしは、他の人とは違う見方でこの世界を見ている。個性全開、斜視の治療体験をもとにした絵本です。
6この点 点字を発明したルイ・ブライユのおはなし ジェン・ブライアント／文 ボリス・クリコフ／絵 岩崎書店 （絵本）	目が見えなくても、本が読みたい。文字を読んだり、書いたりしたい。暗号から指でさわって読む文字「点字」を発明した盲目の少年ルイ・ブライユの物語です。

今日からは、あなたの盲導犬 日野 多香子／文 増田 勝正／写真 岩崎書店 （絵本）	目が不自由な人たちの目の役目を果たす「盲導犬」。盲導犬の訓練の様子や、盲導犬と目の不自由な人が相棒になれるかどうかの訓練などを紹介する写真絵本です。
もうどう犬べえべ セアまり／文 平澤 朋子／絵 ほるぷ出版 （絵本）	べえべは、「盲導犬」という、特別な犬なのです。盲導犬は、見えない人といっしょに歩いて、目のかわりをする犬のことで、道にある障害物をよけて、見えない人が安全に歩けるようにするのです。
はたらく犬たち 〔1〕 アルバ／編 金の星社 （小学3～4）	犬には、目的に合わせて人の手伝いをする優れた能力や、そばにいてだけで人を元気にしてくれる、優しい力があります。盲導犬、聴導犬、介助犬、セラピードッグといった、はたらく犬たちの仕事や訓練の様子などを紹介します。
ぼく、アーサー 井上 こみち／文 堀川 理万子／絵 アリス館 （絵本）	訓練を受けて盲導犬になったぼくは、ノリオさんにあった。ノリオさんは、ぼくをゆっくりなでてくれた。ぼくは、ノリオさんがいっぺんで好きになった…。盲導犬アーサーの一生を描いた絵本。

4. 耳が聞こえにくい・聞こえないということ

いっしょがいいな障がいの絵本 2 嶋田 泰子／文 内藤 裕／写真 ポプラ社 （小学1～2）	美咲さんは、口の動きから言葉を読みとって話したり、手話や指文字をつかって話したりします。美咲さんの学校での1日や普段の生活を通して、聞こえないという障害について考えます。
ぼくのだいじなあおいふね ディック＝ブルーナ／え ピーター＝ジョーンズ／ぶん 偕成社 （絵本）	ベンは、ときどき、人のいうことが聞きとれず淋しい思いをします。難聴児の日常と心の内をわかりやすく描いた絵本です。
ローラのすてきな耳 エルフィ・ネイセ／作 エリーネ・ファンリンデハウゼ／絵 朝日学生新聞社 （絵本）	難聴で、周囲とうまくつながることができないローラ。悩むローラは、デジタルのすてきな耳、補聴器と出会います。耳が聞こえにくい女の子の気持ちを素直に描いた絵本です。
わたしの妹は耳がきこえません ジーン＝W＝ピーターソン／作 デボラ＝レイ／絵 偕成社 （絵本）	「耳がきこえないって、耳がいたいのか？」と聞く友だちに姉が答えます。鋭い表現とやわらかくあたたかい絵で、ろうあ児の心の世界が描かれています。
14の心をきいて 土田 義晴／作・絵 PHP研究所 （絵本）	実際のろう学校をモデルにして、障害に負けず懸命に生活しているこどもたちの姿を絵本化した作品です。音のない世界を読者に伝えます。
せなかをとんとん 最上 一平／作 長谷川 知子／絵 ポプラ社 （絵本）	しんぺいは、今日さかあがりことができました。鉄棒の上にすわったら遠くにお父さんの姿が見えました。「お父さん」と大きな声で呼んでも、耳が不自由なのでお父さんには聞こえません。
トーベのあたらしい耳 トーベ・クルベリ／さく エッマ・アードボーグ／え 少年写真新聞社 （絵本）	トーベの耳は聞こえにくかったのですが、おとうさんとおかあさんは気がついていません。人のはなしをちゃんと聞いていないと思ったおとうさんがトーベと話し合ってみると…。難聴の著者の体験に基づいた絵本です。
耳の聞こえない子がわたります マーリー・マトリン／作 フレーベル館 （小学3～4）	内気な少女シンディが引っ越した街には、耳の聞こえない少女ミーガンが住んでいました。アメリカの日常生活を背景に、ふたりの少女の心情をいきいきと描く素敵な友情のお話です。

耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ ナンシー・チャーニン／文 ジェズ・ツヤ／絵 光村教育図書 （絵本）	ストライクなどの審判のジェスチャーやチーム内のサインを考案した、聴覚障害をもつメジャーリーガー、ウィリアム・ホイの伝記。少年時代からメジャーリーグで活躍するまでを描いています。
ともだち くすのき しげのり／作 よしむら めぐ／絵 小学館 （絵本）	となりの家に男の子が引っ越してきました。女の子は、友だちになりたいと思って何度もあいさつしたけれど、男の子は知らんぷり。やっと気づいたと思ったら、変なしぐさをして…。
こどもの手話ソング集 民衆社	先生や保育士さん、子どもたちに人気の手話ソングをぎゅぎゅっと濃縮！すべての歌に譜面と、かわいい女の子のイラストで教える手話のやり方が付いています。
知ろう!あそぼう!楽しもう はじめての手話 Ⅰ 大杉 豊／監修 ポプラ社 （小学3～4）	はじめての手話、クイズやレクで魅力発見!みんなでできるゲームや、指一本からできる手話など、はじめての手話を楽しく学ぶ工夫が満載。全5巻。
ちいさなてのおおきなうた 五味 ヒロミ／作 ユルト聖子／絵 生活の医療 （絵本）	生まれたときから音がよく聞こえないふみちゃん。もうすぐ幼稚園の歌の発表会ですが、「へんな声」と言われるので歌が好きではありません。すると、仲良しのゆうなちゃんが、みんなで「手話ソング」を歌おうと提案して…。
手で笑おう 手話通訳士になりたい アン・マリー・リンストローム／著 汐文社 （小学5～6）	声に出して話すのも、手と腕を動かす手話も、伝えたいという気持ちは同じ。耳の聞こえない両親のもとに生まれ、ろう※の人と健聴者とを手話でつなぐという夢をかなえたスウェーデン女性の若き日の実話を紹介します。
はじめての子ども手話 谷 千春／監修 主婦の友社 （小学3～4）	楽しく手話をはじめよう！ 指文字、あいさつ、かんたんな手話などを、イラストや写真、スマホで見られる動画で学べます。

※ろうあ…耳が聞こえず、ことばが話せないこと ※ろう…障害のため耳が聞こえないこと

5. 学びやコミュニケーションが苦手だということ

いっしょがいいな障がいの絵本 5 佐藤 陽一／文 坂本 真典／写真 ポプラ社 （小学1～2）	やっちゃんはなぜか、ときどき、ひとりで学校に入れないことやひとりで家に帰れない気もちになるときがあります。やっちゃんの学校での1日やふだんの生活を通して、自閉症について考えてみる写真絵本です。
おいでよルイス! レスリー・エリー／さく ポリー・ダンバー／え フレーベル館 （絵本）	ルイスは変わってる。同じ言葉を繰り返したり、じっと壁を見ていたり…。 自閉症の転校生ルイスのとなりの席になった女の子を通して、ルイスが友だちの理解を得ていく様子を描いています。
自閉症・ADHDの友だち 成沢 真介／著 文研出版 （小学5～6）	会話がうまくできなかつたり、場の空気や人の気持ちがわかりにくかつたり、集中や、がまんができにくかつたりと、目に見えない障害をもっている人たちがいます。「自閉症」や「ADHD」※について、わかりやすく紹介します。
自閉症の僕が跳びはねる理由 東田 直樹／著 KADOKAWA （小学5～6）	人との会話がむずかしく、気もちを伝えることができない自閉症の僕。みんなに迷惑をかけることもあるけれど、未来に向かっていっしょに楽しく生きたいんだ…。

すずちゃんのうみそ 竹山 美奈子／文 三木 葉苗／絵 岩崎書店 （絵本）	すずちゃんの動きは、へんてこりん。その理由は…。自閉症スペクトラムのすずちゃんの代わりにママが書いた、保育園のお友だちと先生へのお手紙。自閉症の主な特徴も解説します。
たっちゃんぼくがきらいなの 佐藤 敏尚／作 宮本 忠夫／絵 岩崎書店 （絵本）	ぼく、たっちゃんと遊びたいのに。「ぼく」の疑問に答え、ともだちの自閉症について、理解をたすける絵本です。
ふしぎなともだち 田島 征彦／作 くもん出版 （絵本）	引っ越してきた島の学校に、ひとりごとをいっている子がいて、びっくりした。やっくんは自閉症という障害があって、おはなしするのが苦手なのだと、先生に言われて…。
アスペルガーの心 Ⅰ フワリ／作・絵 偕成社 （小学3～4）	ふわりちゃんは9歳の誕生日の2日前にアスペルガー症候群であることの本人告知を受けました。ふわりちゃんが、アスペルガーの子たちが、どのような特性をもって、どのように接してもらえるとうれしいか、絵と文章で伝えています。
ぼくはスーパーヒーロー メラニー・ウォルシュ／作 岩崎書店 （絵本）	アスペルガー症候群という発達障害を持つ男の子、アイザックは記憶力はいいし、言葉も達者です。でも、変わったところがあって…。アスペルガー症候群の子どもの様子と接し方がわかる絵本です。
いっしょがいいな障がいの絵本 6 嶋田 泰子／文 岡本 順／絵 ポプラ社 （小学1～2）	ひろくんは小学1年生。授業中、急にとびだしていったり、順番を待てなかったり、友だちをぶったりもするけれど、ゆっくり説明すれば分かるんです。ADHD※について考えることのできる本です。
オチツケオチツケこうたオチツケ こうたはADHD 佐藤 敏尚／作 宮本 忠夫／絵 岩崎書店 （絵本）	ADHD※と呼ばれる子どもの本人の視点から、分かっているけどコントロールできない本人の気持ち、認められほめられて落ち着けることなどを伝えています。
ボクはじっとできない バーバラ・エシャム／文 マイク・ゴードン／絵 岩崎書店 （絵本）	ADHD※をもつ少年が、自分の特性に「気づき」、対策を「発見」します。自らの課題に気づき、自分で自分を管理する方法を発見するための望ましい考え方を、かわいい絵とわかりやすい文で紹介しています。
ありがとう、フォルカーせんせい パトリシア・ポラッコ／作・絵 岩崎書店 （絵本）	トリシャにとって、字は、くねくねした形に見えるだけ。友達に読めないことを笑われて…。新しい先生が、字が読めないトリシャに特別な練習を始めてくれました。
さかさまになっちゃうの クレア・アレクサンダー／さく BL出版 （絵本）	先生のお手本どおりに字が書けないアルフィー。みんなはちゃんと書けるのに、どうしても字がさかさまになってしまう。みんなが笑うかもしれないと思うと、教えてほしいと先生に言い出せなくて…。
スワン 漆原 智良／文 アリス館 （小学3～4）	発達障害のひとつである「学習障害」を抱えながらも、アルバイトを続け、絵本作家になるために、美術の先生から個人指導を受けている岡本美香さんの物語です。
なまけてなんかない！ 品川 裕香／作 北原 明日香／絵 岩崎書店 （絵本）	かけっこ1番、何でもできるりんぞうくんですが、どんなに頑張っても、字が覚えられません。知的には問題がないのに読み書きがスムーズにできない「ディスレクシア」の様子とその対処法がわかる絵本です。
よめたよ、リトル先生 ダグラス・ウッド／作 ジム・バーク／絵 岩崎書店 （絵本）	字が読めなかったぼくが本を好きになったわけは。ADHD※で字が読めなかったダグラス少年と、字を読む指導をしてくれたリトル先生との心温まる物語です。

パウルのスケッチブック みやざき ひろかず／作 BL出版 （絵本）	くまのパウルはおしゃべりが苦手です。ある時、パパがスケッチブックとお絵描きの道具を買ってくれました。パウルは、自分がかわいいと思ったもの、きれいだと思ったものを描いて、家族や友だちに伝えていきます。
ぼくは川のように話す ジョーダン・スコット／文 シドニー・スミス／絵 偕成社 （絵本）	ぼくには、うまく言えない音がある。学校でもうまく話せず落ち込んでいる僕を、お父さんは川へ連れて行ってくれて…。吃音のある詩人を支えた少年の日の出来事を描いた絵本です。
やましたくんはしゃべらない 山下 賢二／作 中田 いくみ／絵 岩崎書店 （絵本）	クラスにへんな男の子がいます。その子の声を聞いた友だちは、だれひとりいません。自分の名前も、授業中もしゃべらない不思議な男の子、やましたくんのおはなしです。
るいちゃんのけっこんしき きだに やすのり／作 木谷 アンケン／絵 学苑社 （絵本）	言葉がつかえて、人前で話せない、あやちゃん。食べるから笑われ、笑われるから話せません。ひとりぼっちのあやちゃんに、ある時、るいちゃんという友だちができて…。吃音のある女の子の実話をもとにした、勇気と友情の絵本です。

※ADHD…注意欠如・多動性障害

6. その他

アイちゃんのいる教室 高倉 正樹／ぶん・しゃしん 偕成社 （小学1～2）	ダウン症のアイちゃんと通常学級の子どもたちが過ごす日常を写真とともに紹介している写真絵本です。
あいちゃんのひみつ 竹山 美奈子／取材・文 えがしら みちこ／絵 岩崎書店 （絵本）	ダウン症をもつ女の子、あいちゃん。ゆっくりだけどいろんなことができるようになってきたあいちゃんは、特別支援学校から地元の小学校に転校し…。
チーちゃんのくち 渡辺 真美／ぶんとえ 口腔保健協会 （絵本）	チーちゃんは4つ上のいとこのともみちゃんが大好きです。ところが、ともみちゃんと違うところを見つけてしまいます。それは、お口…。チーちゃんは、「口唇裂」で生まれてきていました。
てるちゃんのかお 藤井 輝明／文 亀澤 裕也／絵 金の星社 （絵本）	海綿状血管腫という病気で、顔に大きなこぶのあるてるちゃん。個性を尊重し、大きな愛情で包み育てたお母さんとてるちゃんの物語です。
となりのしげちゃん 星川 ひろ子／写真・文 小学館 （小学1～2）	保育園の3歳児クラスに通い始めたしげちゃんは、ダウン症というハンディをもっています。ある日、同じ保育園に通う少女、あらちゃんと仲良しに…小さなドラマの始まりです。しげちゃんの1年間を見つめた写真絵本です。
発達凸凹なボクの世界 プルスアルハ／著 ゆまに書房 （小学5～6）	耳、鼻、目、口、ひふなどが過敏な人がいる。感覚過敏の小学生タクが体験している世界や気持ちを描き、かかわりのヒントを示しています。
ぼくにできること 土屋 竜一／著 みらいパブリッシング （小学3～4）	差別やいじめをものともせず、いたずらや冒険に明けくれた日々。デュシェンヌ型筋ジストロフィーという難病を抱えた著者の、幼い頃の体験から生まれたわんぱく成長物語です。

ぼくたちは、いつまでも 関谷 ただし／作 そうえん社 （小学3～4）	ぼくは田淵安彦、4年生。太ってるから、ブッチー、ブッチーってからかわれてる。2学期の席がえて、車イスの神山くんのとなりになった。神山くんは、筋肉がちちんでだんだん力がなくなっていく病気なんだって。
ぼく、どこにでもいる カバです みやざき ひろかず／さく・え BL出版 （絵本）	どこにでもいるカバくんが、ほんのすこしみんなとちがっているのは、嬉しいときの顔。まわりのカバたちにちょっとした誤解を招きます。
みんな、ワンダー R. J. パラシオ／作・絵 アルファポリス （絵本）	生まれつき顔に障害があるオギー。ほかの子たちは、彼の顔をじろじろ見たり、笑ったり、平気で悪口を言っている。そういう時、オギーはヘルメットをかぶり…。
目がみえない耳もきこえないでもぼくは笑ってる 佐々木 志穂美／著 KADOKAWA （小学3～4）	ぼく、洋平は、77,000人に1人という難病をもって生まれた。ふたりの弟は自閉症。ぼくらには障害があるけど、しあわせだよ！
えがお、ときどき涙 シリーズ人間取材班／編 旺文社 （小学5～6）	きみのまわりに体の不自由な友だちがいたら？見ないふりしていませんか？骨形成不全症という病気の少女、国際養護学校の子どもたち…。体に障害をもちながら、とびっきり元気に生きている人々の姿を紹介しています。
こえをかければよかったのに… 西田 征史／原作 鈴木 友唯／絵 ほるぷ出版 （絵本）	学校からの帰り道で、車いすの人を見かけたアイくん。なんだか困っていそうで声をかけるか悩んだけれど、けっきょく何もしないで帰ってきてしまったことを後悔していて…。
たっくんとぼく 清水 千恵／作 文研出版 （小学1～2）	たっくんは、片づけや着替えがひとりではできないから、いつもぼくが手伝ってあげる。ある日、いつものように「かずくん、かずくん」って追いかけてきたたっくん。なんだか嫌になってわざと階段を走って逃げたら…。
だいすきな先生へ デボラ・ホプキンソン／文 ナンシー・カーペンター／絵 評論社 （絵本）	親愛なる先生、おぼえていらっしゃいますか。わたしは、落ち着きがなくて、こまったことばかりする生徒でした。でも、あなたは、決して叱らないで、すばらしい1年間の思い出をくださいました。大好きな先生へ思いをつづった手紙。
手と手をぎゅっとなにぎったら 横田 明子／作 佼成出版社 （小学3～4）	特別支援学校って、いったいどんな学校で、どんな子たちが通っているんだろう。初めて特別支援学校を訪れたわたるにとって、そこは驚きの連続で…。知的障害クラスの児童たちとの心の交流を描いた物語です。
みんなとおなじくできないよ 湯浅 正太／作 石井 聖岳／絵 日本図書センター （絵本）	障害のある「おとうと」がいる小学生の「ボク」。おとうとのことが好きだけれど、ちょっと恥ずかしい気持ちもある。